

徳島県職員採用試験（就職氷河期世代）
第2次試験 論文試験について

- 1 出題数 1問
- 2 解答時間 1時間30分
- 3 文字数 約1,000字

4 過去3年間の論文課題

令和4年度

【行政事務】

地域課題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、行政のみならず、民間企業や地域住民等の多様な主体との連携や協働により、施策や事業に取り組むことが効果的である。

そこで、これら地域における多様な主体との連携や協働により解決すべき地域課題を挙げ、それぞれの役割や必要性、得られる効果について、具体的に述べなさい。

【総合土木】

建設業界の深刻な人手不足が懸念される中、災害対策やインフラ老朽化対策など、県土強靱化を着実に進めていくためには、建設現場の生産性を向上させる必要がある。

また、新型コロナウイルス感染症を契機とし、建設現場においても「非接触・リモート型」への働き方の転換が求められている。

そこで、建設現場の生産性を向上させるため「ICT技術」の活用や「i-Construction」の普及拡大など、新技術導入をどのように進めていくべきか、これまでの経験を踏まえ、あなたの考えを述べなさい。

令和3年度

【行政事務】

「新型コロナウイルス感染症」により、人流の抑制や県境をまたぐ移動制限が行われる中、「地域の活動」や「各種イベント」のあり方が大きく様変わりし、地域経済への影響も深刻なものとなっている。

今後、アフターコロナを見据え、これらの活動やイベントを持続可能なものとして継続し、地域を活性化していくために、デジタルの活用や新たな手法による開催方法について、これまでの（職務）経験を踏まえ、「具体的な方策」と「その効果」につ

いて述べなさい。

【総合土木】

高度成長期以降に整備されたトンネルや橋梁等、社会インフラの老朽化が進む中、これら施設を適切に維持管理していくことは喫緊の課題である。

本県では、インフラの定期点検を行い、その結果に基づき長寿命化計画を策定し、計画的な維持管理を進めているものの、将来にわたり安全性を確保していくためには、AIやIoTなど、先端技術を活用し、メンテナンスコストの縮減や平準化を図っていく必要がある。

そこで、社会インフラの老朽化対策について、今後、どのように進めるべきか、これまでの経験を踏まえ、あなたの考えを述べなさい。

令和2年度

【行政事務】

新型コロナウイルス感染症によって、一部の人たちによる心ない言動（感染者の個人情報を探査・拡散したり、あるいは、阻害するような言動）が問題になっている。

少子高齢化が進んでいる本県では、「人に優しい」社会を目指していくべきであると考えた場合、徳島県として、行政はどのような距離感でこのような行為に対峙し、対策を取るべきか。

これまでの経験を踏まえた上で、あなたの考えを具体的に述べなさい。

【総合土木】

気候変動の影響により頻発・激甚化する水災害や切迫する巨大地震等から県民の「生命」と「財産」を守ることは最重要の使命である。

このため、3か年緊急対策後も中長期的な視点に立った計画的な取組を行い、防災・減災が主流となる安全・安心な県土づくりを推進する必要がある。

そこで、県土強靱化をさらに推進するために、徳島県が優先的に取り組むべき課題とその対策について、これまでの経験を踏まえて、あなたの考えを述べなさい。